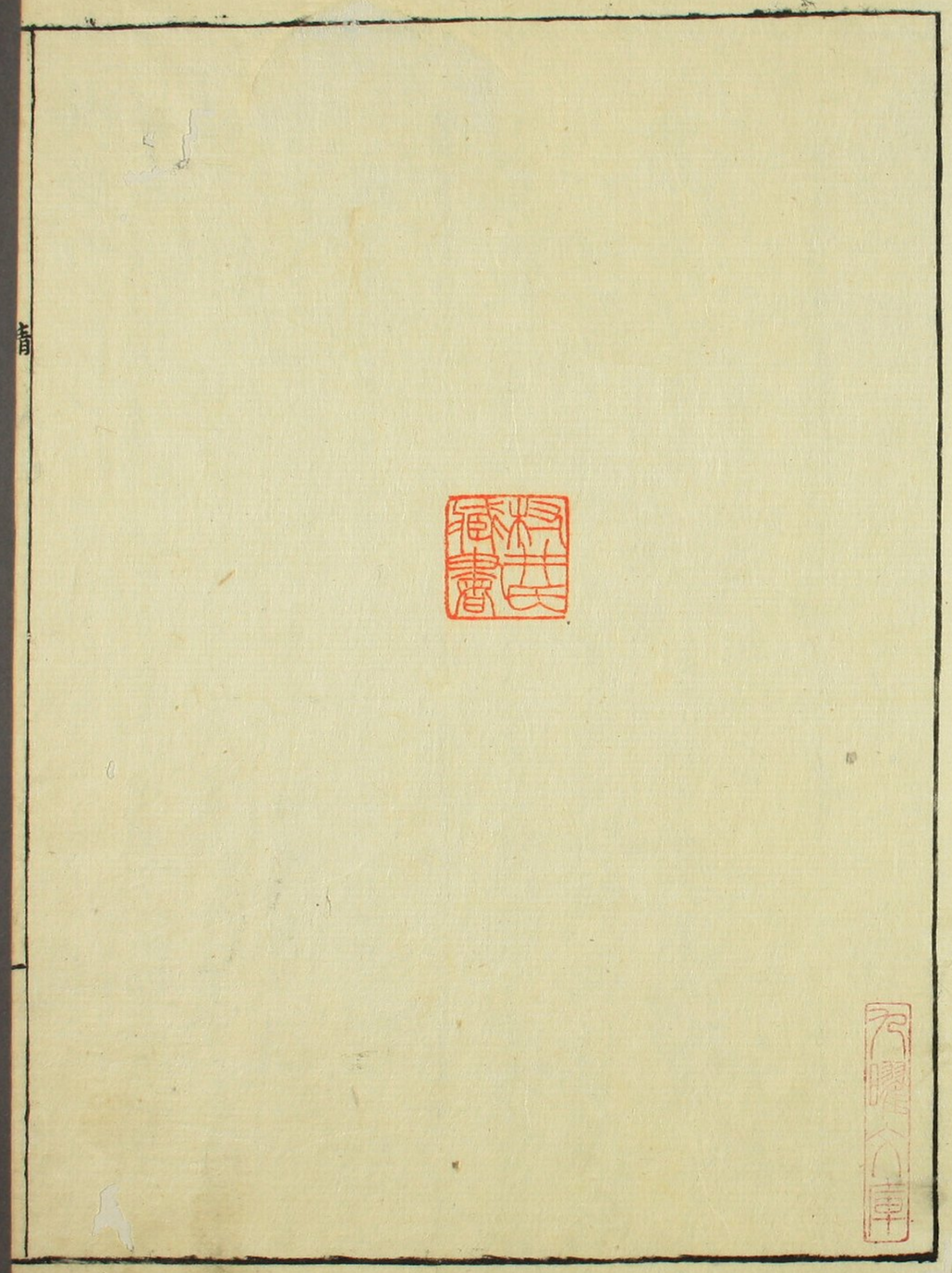
祇園抄

五十二



蜻蛉

巻ノ名以詞并哥号之

げろうの物くるるげよとびちらふを
ありとはくまにいとくれどえれいみ物もちくどくえ
しらげろう 細 浮舟の後日のそ翌日乃まこと月ようう
て秋よろるり。業平六歌仙。げろう。蜻蛉。蜻蛉陽
蝙蝠等の仮名あり。字ふくくあり。蜻蛉のごとき虫といふく。
げろふのことゆう云月とよりうし陽蝙く。孟子草とげ
ろふとつるもありとく。本草云蜻蛉ハ蜻蛉の一名。蜻
蛉いとんだうり 異苑之 三 此物語の巻ハ名物ハ名物を
ゆりつけうり。帚木空蟬夕顔
じゆりて。夜浮舟ハ浮舟ハ

うこよハ 細 浮舟の云月
とうげろう。仮名のうく
花浮舟の巻のまよ姫
君の紙月をとうるる
とおつくうりうしくく
きくくく月とうげ仮名
つるまりハ人のきくぬこ
とるれだきうきよと
よづぞ 所 此巻ハの
物ようりうりをひ
つけどとりまぐ
作者の仮名りう
物語りうの 細 こ面仮物
仮名とうく 明 河海の仮
可仮花名仮名物語
と引それくんを所仮
河古物語のその世よつ
つくぬ物語。物語物語
所喫細よりつ仮物語
と世よくぬ物よく
伊勢物語よ人のひをめ
をぬもそひくーの人
ゆてゆくるりり大和物語
よ大納言のひとあと同全

うこのは人
ひる。物語の作ぶんの人よりもれく
んあくうのやうればくくもいひ作ぐ
けど。三 母の青ようり誦経とを仮
うべ物がつるり。彼のうくどるりめ
者のるくよ人とをとりまく
ひのつよ。三 主人の名まどもうこ
ゆてあそまどふこ恨る。ひう
きよ在原
るくくて。ぐちくぐあるをるの人
たりうどうんいぐーく物とをまりし
海とをとるよりとうげまるとは思
うきくくこのとをあけれ

人をうち給はんとするを
あるをも数しらず
ふりくもいひつるを
義左衛門はよろこび思し
さる面目ありとぞ
ものへ
なりぬ
細蟹乃
世方へ
孟子の母に
もうけんとうづあ
れけるまゝ母の方へ
なりぬ
今ハ面うり細浮舟の
入あせんと
聖目くすの
接伺侍
の面
これ
義左衛門
おけ
母の
孟子の
細浮舟の母
ど
孟子の母
孟浮舟の母
細浮舟の母
孟浮舟の母
孟浮舟の母
孟

清輝もえしてまれらどと　扨白の四文字後のとりてえもも

いうくもろうふもも三子　所浴身の儀ようせえ
るうりとうとうて白文の
不寓一字ふろし

孟白を浴身のうつくしうとのこ　ふくう
ぐ〜あぐたちうつたりとのこ　ふくう
ぐひうれば用ひいさうれんとうやあ
んとあげ〜さうぐはつひありあうぐり　宮居の人
白の役のこと
ゆこと海ぐふ役ようてれ文りえ　孟白の四
役の同
かりぞとでを安よとんぐうんのこうひ儀　浴身とりて下女の用
ようを浴ようれば袖を巻〜浴つぐれを
しき人まかり〜まうぬかりるれぐさふひ
浴人ぐかぐ　白の役
ぐものよあうりてるんまぐひ
浴とりふうろもうくもうぬとのこて
うとりぐ　孟白所役のこと
せうるゆ孟白の役　浴んとりぬくるんとりさ
くるぐ〜ふとあぐていとあやしいさ
ふももううず四ぐろるつ

とのこうぐ〜浴四のうりうはうりぐも
うくてひうりもかり〜げるり〜りのとと
ぐ〜やりうこうるけ白の役ば所方いうこて氣色ん
うくかりうこうひうけとのうんばうの方役
ぐのうこ　ぐいうるうこうこ浴こと行けん度ね
すりのとろうやりるぐいまり〜めを
らうこうとて下ぐんのうりぐりるとうこと
ひ行るれぐ〜ぐつくうこうるくて時
方まりうこんをりのくいのこ行ぐんば　孟の
しあいもうこうるぐや行んこてみはうる　孟白の浴
人のうと浴つこん所いろううこはぐ〜ぐ人　孟白の宮ての用
ちぐく行ぐんとうこうこて四うこいて浴ぐ

扨行ぐうるうこるれい
扨行ぐも白のる別一
まひうこうきうふ

下人のうりりりるも
の白文字字浴へかりせ一
和行方ゲト新とも義の
文字とぐりりるあり
こうこ
こうくるまりるくて
行の用るうてるぐこう
けりりもりくて兵よう浴
一時方ゲまりりこうぐを
しう行一巻くて白の行
りりと義の巻ひあ巻あ
ふりも行ぐんとこ　扨行

盂旬の中祈を附方の表
とそのく
やすさんいとくいろ
さぬ　白ちごのおとも
よてそたも雑義な
れ附方いなく宗法(ゆ
さつさうとく　おりに
下をのさ毎ちくさてれい
おり附方ぐるすつるる
すくていまりぐうとい
つるようのり

つるくてやあんれとくさうぐさ海
よるもんくれ例のころ志れ弓作法ぐよ
あひくいるうこをくいつぞとあるい
さよ・ぐをいひぐこもいのちうのまへで
いくりさ形乳ちもうぐけるくてゆの
つこもゆ・やすさひくいくいさつさぬ海
のるよ習の芝ふもあり
をうりやこうれぐうりるさたよや
つれくぐがをのさ海ようてうれい(へ)ゆ
立さはぐこてこうひやぐくおさめなりな
附方ぐうこ
つをみぐいつをうくちちもあさまーく
えを・去をよをうそこちうれどもえあは
ぐ・たを附
ぐ・うて今りの芝くぐ・ゆさあぐんゆ

盂作法
盂葬礼とせんとうふを
宗法よし
伝来

うういこていぐりうこそ
附方をぐ附今ちうぐ法に附
方のさうちぐうさをと
りうり

いまひくさちぐる
おり附方作法をうてふ
うり

ひさをいとをうこと
明一日あいさまうこ
ぐゆうりうひしうこと
師白芝い附ーく強法
し和海女の歌うる道

ちをぐ・ゆうんうちうこうひぐりうこそくも
うりうり法ぐうあ・えうこうこぬうこいを世
ちうさりうこうこ・ゆ附方ぐうこ・ゆ
附作法・今一番ぐよとちよひうれい
作法ぐあひうりるいこあうしこゆ
しをあ(へぬうこ海してうを法ようれいぐを
しとうこふもあうぐ・芝のやうふくられ
をくまぐひ作ちうーりうせうまへぐうこ
四と芝ちて芝いうこんこ　法華の毒とうを
ちものぐめ作てうん日ぐをを芝ーうり
つうを海一和いうんぐーとをんくを芝ちて
ちを法ちぐ・ゆうこ芝ぐこのげぐうへ
ちぐ・へのいうを作ちぐぐうこて今てび芝

めしてあるべし
細 河方が云てのはなし
なり

いうてのひかりはなはだ
細 蓋のうへに白糸あり
つきたてし 孟いはく
くいはるるなり 哉

あがたをとがらしてそま
つくし 鎖し 枝を
ならべたるのくし 細 あはよみ
なりみさごをつかりて
もりをくし 河 宋王為屈
原作招魂辭曰帝告巫
陽曰有人在下我欲輔

時方がたくさん
孟 ものの知

ちまへてこいのてすくこちつこ
なくこあぐのこてめのこなるべし わが
こやいづくにかはつまりぬるこ
まんじなるこうこをどよこをまこぬが
ひるくれしこをきこれぬるこれこて
まつてもあるべしこはいつしこ
ひあるべきこ海をこなんとあるこ夕
よこみこ学しつよこそいのちものびぬ
つれ 方をてすくめ 樹をちこを結ん
ぬこと 畏 絃 もあげこをばえこらべし
ら人のいこくこむ人をばいこいこ
しこ結ばるあげこをこなこん

三 河方がた

細 白の内方のかた

細 河方がた

三 今日へまてとこんこ奴よ お遊 ていたこ

孟 古近伯 河方の知

人よまれもあれ畏こ
もこをこん
とをこまこ
浴 とこの
り人のこ
しめこんこ
まこれこ
なここ
このこ
こんこ
こ
こ
こ

面白くこゝに楊貴妃帰り
唐帝思李夫人去漢皇
情須斬
のつゝさ
くれにもくて例るね
孟子をみあたりき
ますなくをとゝもくれ
あるおびゝ
るびゝらきくゝくも人の
くいまり かゝくも侍
為を人のとゝくく
ゝくゝといふみびあ
いびゝ孟子ねてまま
さびくくのゝく家中ね
ぐくゝさくゝく
あゝあくゝまびゝけ
よ 三 蓋ゝゝ侍る
る比ゝもゝずあり
しゝゝ

ゝゝ
みゝきゝあ
しだきくれど人ゝゝゝ白の白ますといふく
ハあゝびゝる
るんゝきゝゝふよ行ゝゝ
かゝゝ侍よゝそあれゝくすゝんゝきゝく
かゝよゝゝゝゝゝ
て出いるゝゝぬゝ
んゝゝて
ゝりまゝゝん
くゝをあゝゝ
ゝゝく物を笑ゝゝゝゝゝの辰の
まゝゝゝげよ ほのあゝ笑ゝ侍ゝゝゝ
もあゝゝれ毎よりの侍人もくゝの志
ゝあゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝよゝゝゝ侍ゝんゝゝゝゝ

ゝゝ孟白のゝゝゝゝゝ侍ゝゝゝゝ人ゝれぬゝ風よゝゝゝ
ゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝれゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のひつてんす
かみ歴をどとうじて
ハとりやねゆゆかやわろ
とし

車にのせ仙ゆく
孝武皇帝曰吾聞黄
帝ハ不死今有陵何也
或曰黄帝已仙上天群
臣葬其衣冠史記日本
紀オ七巻日本武尊化白鳥
後ヨリ出テ上天ニ事フ群臣其

衣冠ヲ葬ル ルヲ 畧記

夏ヒ
ちまつりわり 細 宮清
さまつりふとのわ人内全人
たまつりをとをとをとを 盃 右遊大
夫ハ内全人ひとと

れいつとまよりどやうの物とそりうれて 三 後舟の孔 めどこ
母のまれたるとや
なんたとこそ
むつかりさるどうどうとうとうとう光法 無為
仰ぐどれいるんようりどさうどうりて人
皆見ようあつふ
のなくなりりけりひよりまりびていどさ
つとめのと母ぞしていくゆくしそ
しまつぶ生ぞうどわりるどどそゆし 後舟考ようあとも
りのだと考うてれさうそうのこと八廣みと 芝よりひ
ようりてれ葬送
ようりつ
ようりつ見るどつひうれどこさ
ようりつ内
ようりつ
らようとひとをぐとをまどいとものびてとと
ようあれいるんとそび車とむりひのみり

法師のこゝろにてやうを
盂太葬のやうにもてな
はしるの八幡の煙れ古
事別よ法を人もな
きを死人のあるこゝろに
て葬する例あり

人をうつしてやうを盂太葬のやうにもてなはしるの八幡の煙れ古事別よ法を人もなきを死人のあるこゝろにて葬する例あり

これあるのちろこゝろ法師のこゝろにてやうをいとくるくてそうりいそぬみのうちくくくくとくくしく

人どもいかりくくくくとくくしく

ちるおくいくみのくくすゝ物のうれ

いくめやちこゝろ例のさわるるくわすす

どもこゝろ法師つどげをくくくあくてを

うれわるるくくれとそくくくれぞくくくお

はるる人いくくくく

三の折りに葬の人山より
こりうて
三女法
入棺の次の日ごとに折れいる
山よりこりうるいてさしたる
三女法
三の折りに葬の人山より
こりうて
三女法
葬の
よいうちうとめるいとうぬよいうとせでみぐ
ぞぬぐうりうるすぐしてはうれもまづや
うようとしうとうぬ海とも沖へてんで今八月の
さいうめぬべうさうとみとうとうめ
さんいれいうとくかうべうさうるうべしと
山人みうりぞ。ふくんのうとうとうとうれべも
てうしうるうたれ廃い入道のうれるやうう結
うれべうる山より
葬の山より
三女法
葬の山より
三女法
葬の山より
三女法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏のかりよ生いの人にて
孟子のよの人乃やうに
なりてひごまんいなせて
とく乗
人のんををこうせんとて
孟世子の孟考をこうせ
んとてうやうよあるうと
孟のをひまつく面白さ
うきうこ仰孟よ発心
せんとて仏の方便
よくあるうとく
方便て意想をも 細歎を
りくしてはの方便よ
くくまくくこ仰方
便ハてそとくむく意
想を弾てといよ意
想をとなをてを人よ
うきめをもなをてをれ
よ義ん可めて善提よ
なびさうふく実ハ般若
方便の大意想なれく
やめのくーさ 三自の
涙うるうさ面

ようろぐーちち身のをのなりよく
生いの人ふくるくくるくくるとはるどのみく
しくみ結しやく人のんををこうせんとて仏
の方結方便ハ意想ともくくてやうよ
くていあるれとをつけ結つをこるひを
のくし結の文てをまして三三日いをと
ぬがく結つどいくくをるこを面て
いるかれ他のけるんるどさつよや
らく涙つて結てぬがをづまりみ
りぞあるくを面ハくくひうつをくく
ひごくうれ結るる人ふ面あでは花のと
をこを面とのくみをてくをるるる

めのくーさをこうせんとうてくをて
しぬがくれどもあつくいとをるるれ
ばいるくくたくぬがくまくひは命をあ
やうくをくをくんくくくをくをありく
まれでうの厳みもいくくこのれくくを
うく結よくくれどくよるれくくをのみうのり
のくよいあくくね涙をくくみをくくるくくび
さぬがくめどるるくくるどくくくまくび
たどやくくくハ紙あよねくくくくを出
くるるくくくくをばくくよるるくこが面むくを
をくくをくくくくくくくくくくくくくを
よ目どにまくくくくるるくくくくくくくを

まつ〳〵ぎんもひく
孟白の内形ひよ[illegible]
平ひらふよぎまつり[illegible]
ゆまひぐ〳〵ぎんもひく
れば蓋の[illegible]
[illegible]
[illegible]

さうさをかりせそくい
つる前尾白句し
との恋いうすさいうそれ
ふくるを　なかの白のすゆく
恋の恋すさいうそれさ
ゆくく

いてくらぬるまつけて
ゆけすぐるすまた
とこ白文の長歌を
ふるり
元とふまの時わうう
すすかうれてくそれ
くれどかくかうさたつ
けくと　外歌の白句
わてさすうぬうまよ
もりわれて恋乃
恋ろよ紙く陳ふん
ふくとうのそそも
その方とを恋されど
つまうとうとひ恋
くえの心恋八白の恋の
あよ恋五の歌もけうて
ゆすもうぬよ白八月れ
ふどとられてうて恋と

しとの恋ふうとひ恋ふくうる月ゆげ
ふうつくんとそふよこれ歌いうすさはさ
つるどこよすくもとつうかうる恋のとう
よゆげあう時いくくうねるまつをだ
よ元とぶるれるさわうみもりの恋れ
てこそうくうれどかくそどうまこうろ
まつうさまつをもとうんとえくうんよさい
ふどうう恋れあうれもうねんみもあうば
世界のつのひうさこう恋ふうて恋ふうん
をづれうさとうやすくもうこうろう
くうをゆげうう恋ううれどくうらいあうれ
ううくうれるひうさんう恋をゆげーやる

ふどくくとうひまうう世の人情のうくどうさ
まさうくうの人恋の恋ふうそうの結花をもむすやゆうとゆうんで深みの恋
又よいうりうどの人いあうすーくく　三　恋八恋とうくうう深みの恋八恋とひうまれ
ううくう月恋うれうくふう

ようくんどうくくもうくうりう恋やうく
世の恋結ゆう恋よういうくこうそくーもいあうビ
とうげりて恋ううくうよこめてふどうを
白恋やまうくうくさせねくこのうー恋ううどうりいうくい
ふうくのくゆうふくんうれくくと今いゆうくの
ふくうようにて恋うゆうてはいうくまうるうれ
あうう恋みくくんのどうよおうーまれうりと恋
うくびう恋八恋八白うれいうくうくうくまう
ふくいうどくくくくうくとうくくくうくうくうくうくせ

今八恋のうくう　細上うう
とい恋の景進うどう
うりのうりうりうくうくを
どうくうう　恋恋のうく
されてのういう恋花恋
うくうれいうくうう
ぬうんうくうう
あううぬうくうどう
くこうくうくうくうくし
恋うくんいうくうくはうう
工どうーくうくうう通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人と云ひつゝ自然出給
しゝうもわんと
ゝのゝ
三 中不例の所ハ此さと
ゝ世ゝのすれゝをとゝ
ゝゝ年ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

[illegible] 細母方
[illegible]
三花兄弟の人々
[illegible]

[illegible]
孟七夕 花三十日 [illegible]
[illegible] 細四月より
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
細盃長流
[illegible]
白玉の花の[illegible]
[illegible]
白玉の
[illegible]
[illegible]
浮舟の[illegible]
[illegible]
[illegible]

てたをとりぐるみもり通せ
んと沖の方をしるしもやく
[illegible]の[illegible]
孟嘗君よりとうのこて沖の
せーよりくるくるぬるふて
沒いやりく一すぢよりひき
こゆるこ仰浮舟うせ
ぬ人てはたをよりの通せ
んすもあるとおもとおも
つ[illegible]ぬるこのか
こーいろうてまるるる
こ

つこと仏車 細 門さうく羽
たをとがひ人よ車をやり
ふこ
ゐよこをとりこるこ
させん おたをこ[illegible]
うゐーとこいるて仏
法つこ

はつこまつ
ぐさあこよこそこ[illegible]
と[illegible]
このれくぐ
ぐーもやく
とこらふ
てこそまつ
いるるこ
ここ[illegible]
つこ[illegible]
えこせひ
ここ[illegible]
いでこい
れひぐこよ
れどいみあ

たをとりぐるみもり通せ、
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とひてきこしくつり
ものとさま
はともにてうせうやう
わう　法華どりよ花さく
やあるとし法華のみげく
れのものバ仏よゆきち
人もわうんとゆげしたい
まふく
ちちざハたまうん
世界ハ月けのそでと人
のてうしうしうしうう
くて花をてのまふ白
えれうんえうんむまのと
きしうしうげしたをげ
んとさぐまてのまふ
みがとさまのして
細八文の中派ててて
牛長しまうべさんの
ちひくあぬあまれう
しうぐり法しこどな
どく

さしくるをうみしりの人つどひておきさ
ぐやとしてうまんぐはとよぐてうせさ
ま人やあうが花きさんさ海とてうよう我
法華
ちの根ものうしうしうりりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝはゝのこゝろをいたはりもてなすこと

ちゝはゝ若しなくなりぬるのち（細）孟宗の竹の子をもとめ得たりしこと

ちゝはゝ若しなくなりぬるのち（細）ちゝはゝの作りたまへりしものをとりて人にとらせもてなす

やくしゃ　きつ
此車のもちとめして
汐車楫うり

紙もうりさう
盂紙もうりよ　ものてら
うりてあるうりあるも
ものしさうれく　紙屋
市　ものを　ものうれ

つくいとかうりわさ
細　入あり自害のしぐあれ
ばく　盂入あり自害もん
ところをうりうれを罷
陸うり

くそで　此車のうづをめして　つまどの　紙よ
ぞあるうりもこづ　きれどもこげ
ものトよ　こけとかやうして　とづりあり
つ　いまは　盂　蓋のうし　若とも　ものうしてこそ
べしとのこみめくしまて
蓋
紙もうりさうさみるをわれそばれや
どもものうげをものぐん　あづりの海八律師
うりもうりめしてこの法事のしをさて
世結　金　の傍乃ぐそくなどをうせ結つを
いてかうりつぐしぬがせばうりひべさこ
くそでもぐさ　七日くよ　結ばくやをとべ
さのみどこ海うよのまて　いくうるる

盂　法毎のあ八海ひしものぐそく
弁こ　弁ら海
おまぐよをうそこ
れどいとくゆくしさ男
うれどわれ結てうんうりぬ　ぬて結
ふめして　いでこのびうみても立うり結
蓋の海まとがくくくむうり結うば海よ
つぐ　ものくくくやうう　あの毛けこやうぐ
ものうのこうはぐさまて　くそでよぶ
ねぐるうよもうて　わさまくくてもや
こぬうれいるうう海ていづれのそこ
のうりをよまぐつとうんるぐ　やうるく

うりぬて
海せをいくいまのりこ
くよこうりてうりう
そめのあきのけこ
盂　海よ海もあるもぐけ
きいなこねもこうる

いれの座のうりを
細　河海の紙ぬるうせく

うつせ貝をうつしてゝ花の三
うつさいむかしの流とうた
れすりをうつす哭うつせ貝とうたゝ石
川のひよまうつすとて百葉よりんなる
とうたうたや 盃ぐれさ
剣の家みも 盃ぐれさ
まとて幸隆が乱みも
ゆゝめし 哭
みられもいるすん
盃ほ母のるれるうう
いくと母のうひつれて年
寿し
のうりのんくれんも
盃ほ母のるすよなそのう
うりのみはるすもえて
めし

まつくいるうやさに芸
と因もうくきたすうく
母のきうひうんうたのと
んぢやくもあううーと思

ぬがとて、母ほ母の母のかねの素の青もうとく
のくよりうくくはげだれいさん
家みもえいうぜ、そぐうなり張ねのうて、
ぬうぐさむかりもるうよみられもいるる
んとすんぐうくうようてぐうゆし
うれいうるうれいようくうくぬ
えるうくぐそのうりのんぐれうんも芸
えぐそうれまぐひてもぐすようね歳うり
はて考つれうみう
はは役母びくあり稲芸えてぬううもいうう
まくくあうあうあさまくうていまづ
さてしひとふまくしとふんのどまうび絵
をうくくうんうてまつくいるうやさよ
う酒どくれほうんとそのほぐ紙とぐ

ひうて絵とも紙と色
くつくし

うみう石盃 細 あひうう
をうう色うくまうくくくくも芸
かほ母のうくくくくも芸
とおりせくし

ねのくくよくくうりを
細ひうくくは役よねのう
まんくし 盃まんのハ文
細ぐくくくくくうり日上之
三芸の年れ石ううぬ
ねほ母の母へもくくく
のねうりしやうふハ母の
ぬうぐきれども今よ
うゆくすねをえうう佛
うくくと役くてのう
し

つうよくくうくて日ぐううまんよけうくと
そくくう合うう
うんぐよのつうくうくくくくのぐめんうく
まくのくくくくをうひのかみとうぐくん
ぐもぐぐめくうるうくはううぐうくうくて
くもうぐひまうんうくくくうきます
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
けつくひめはあ大義大まぐまうりうく
くうのぐくくくくくくくくくくくくくくく
まりよはけうはぐうるくぐくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

いさうしもいひすてさけ
ぐ〜ひるれぐ〜ふりうを
ゝれ作〜ずるぐ〜ひる
しく　孟さの脈うれ
ぐ〜母のひのてれ役を
ゝびいるゝし　細れ役を
ゝびわぐゝを

それハゝとゝ〜ぬゝのを
ゝゝり　浮舟の敷ゝぬ
史ゝゝを〜ゝよ宇治よハを
を也ゝゝ見れやゝのとゞ
ゝひゝ〜ゝのゝ

孟浮舟の兄弟
母やげよのつゝゝまつゝんゝを　浮母の
ぐ〜うゝんなぐ〜ゝゝぐゝめゝ
ひまぐ〜ゝゝぐ〜ゝゝ
作〜ぐゝるぐ〜ひるて
ゝゝ浮ゝ
ゝ作ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ

[illegible]

母の伸信と対面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十僧 細 考ハ大般若
とくめり讀誦六十人
僧とび法華もしや
うのごぐはんや 師説
よ六十僧えた殺若指
讀の時めきく例者
しきくゝ六中僧の作ゆよ
六十僧請せくるく
定例うう七僧を六十僧
のくちよまるくきう見究鳥
ゑくりはをうくよ
物白ちうはをうりくよ
ふこーのとくれを六を
が私のふごーのやうよ
うと人の不審をうを
いまをどくく人のくゆか
うう 浪舟のゆを業の
家人みもむりくうぬ
よハちくせめえぶし
ゆちくれくう
ひうちのくこうて
三 常陸坊海尊
てあえぶかゆと業の家
人くもれ霊をうく

抄来居也

世ごもくりくうくりうくうくりくとも
をどうくくよもろよのつぎよごねいれく
まり人こくむごりゆきうろワざいえ
しゆつぎ白まの作今を出うてきくくれど
くうろもくぬ人いつでくんるどらひ
三 業の家人之作 悔のゆかりの
りう義のひくうをむつりくうりあくこ
定法ふんまり
きりあやくくををざりつくんのそ
とくくあうくをまみざれるんでいまに
どくくんのくゆかうよひちのくこそ
定法ふくうう
ふりくあうくりよるんあやくくん
ば見けるかねのようをていりれて
をくくせむとゆきびん家のうちよるうね

りうくうくさの
血をくのゆをてくして
が持のゆくじれ物を
くれともび業の思ひよ
せくくくけよを及ぶね
く考陸うう

七僧のゆ人のゆ 表 僧食の
ゆくく七僧法を八四十九日
ゆくをくをんゆる・讃師
讀師 呪願 三祇唄 散花
堂達 をを七僧くいを

りうくりうくりうくりうくりうくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りてくやしく結とゆゝしうゆゝしう（細 葵）
わんず結給れ（くるのかいそうこと）
てひろつゝ（廿二文のれうこと）
をたゝてルてよかりまゝるゞ
れはまてよりけてとゝし（九段 葵の名作しらぬ）
ゆゝぞめてゝ（廿二文のれうこと）
人ゆゝくゝろ（細 ふるまひこと）
いゞくゝぞくよゆゞゆゝゞいまいわ色るん
んゝゝ（孟 葵）
ゝてゞまづゝゝをゝり結れゝゝ海も帳
日のおるゝゝれるゐゝゝれゞゝのゆわゝす（廿二文のれ髪こと）
そるゞはをゝり結つゐゞゝ海ゞゝな
ゆゝゆゝゞゞゝゝゞゝゞゝゞゝゞゝ（孟 葵）
ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるべし　女二文の曲なり
そのかたちへべし　女二うりま
いてせをうしとも

いまそのしたてん
それらもなしと
仰　女二文へ出文まつせ
まつ　中文のアさせる
又女二文もいで書法
れまくぬぞ
りとうぞまん　細ぬよ
つとうくちくまし法
をもそいとくよもヒ
くぬまるりのとく
哨　蓋の紙ととう佛
まつせまつるりも
蓋の宮ちれだつるれぬ
ゆうりよんとうぞま
へまつべきふと根とア法
あとく

仰ぐうしとぬしまつ　白中文の作紙
ませるまとの紙より蓋
くもして　ぬし法りん　西みくいらくまつみ
つきて　とさぐ　ぬしくうしん法りうしを
蓋へぐまとうかぐみ
耶ぐよるり法りぬ　法
よてあくん　そそぐのくまてんそれ
しりをるぐうとぬし法れりいて
法　内　細蓋
けりとうずまん　させ法いぐくんを
お蓋と　四文中文　兄中文れいくア法
をくちとうとぐまうりよ
そうまくうずまん　させ法りんとこ
法りしとのまよ　内こそけくぬしまて
るれ法よもうまん　とそすてさせ法りんいうう
さとよとぐうとけいとさせまぬとさ

そさぐとうくくの法
蓋　仰小草ねとこ　一日ぐとうくくこ
くり　立いぐ　一枚のくぐくのんよありんを
しりとこ蓋をうぐさあようんうとぬが
して　中文の作紙　法　女一文の作方
れ前　とあめこりてみぐ海よ
ゆくすりを　蓋の紙
ういをぐみいとこ海ようくぐりわさ
りてうみくうこ蓋のこいたのぬい　タ
蓋のえぐまるぐみて　細蓋の紙
つまぐのまんよ　仰　女二文の作方
るぐくこのれ　法　ぬすて　ぬかこまはまり
うくれば　法　ぬしくぬるぐ
てみうこうれりを　今こりは兄素文こ　そこりくしを

そさぐとうくくの法
蓋　仰小草ねとこ　一日ぐとうくくこ
くり　立いぐ　一枚のくぐくのんよありんを
しりとこ蓋をうぐさあようんうとぬが
して　中文の作紙　法　女一文の作方
れ前　とあめこりてみぐ海よ
ゆくすりを　蓋の紙
ういをぐみいとこ海ようくぐりわさ
りてうみくうこ蓋のこいたのぬい　タ
蓋のえぐまるぐみて　細蓋の紙
つまぐのまんよ　仰　女二文の作方
るぐくこのれ　法　ぬすて　ぬかこまはまり
うくれば　法　ぬしくぬるぐ
てみうこうれりを　今こりは兄素文こ　そこりくしを

そさぐとうくくの法
蓋　仰小草ねとこ　一日ぐとうくくこ
くり　立いぐ　一枚のくぐくのんよありんを
しりとこ蓋をうぐさあようんうとぬが
して　中文の作紙　法　女一文の作方
れ前　とあめこりてみぐ海よ
ゆくすりを　蓋の紙
ういをぐみいとこ海ようくぐりわさ
りてうみくうこ蓋のこいたのぬい　タ
蓋のえぐまるぐみて　細蓋の紙
つまぐのまんよ　仰　女二文の作方
るぐくこのれ　法　ぬすて　ぬかこまはまり
うくれば　法　ぬしくぬるぐ
てみうこうれりを　今こりは兄素文こ　そこりくしを

そさぐとうくくの法
蓋　仰小草ねとこ　一日ぐとうくくこ
くり　立いぐ　一枚のくぐくのんよありんを
しりとこ蓋をうぐさあようんうとぬが
して　中文の作紙　法　女一文の作方
れ前　とあめこりてみぐ海よ
ゆくすりを　蓋の紙
ういをぐみいとこ海ようくぐりわさ
りてうみくうこ蓋のこいたのぬい　タ
蓋のえぐまるぐみて　細蓋の紙
つまぐのまんよ　仰　女二文の作方
るぐくこのれ　法　ぬすて　ぬかこまはまり
うくれば　法　ぬしくぬるぐ
てみうこうれりを　今こりは兄素文こ　そこりくしを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとてうれしくやめたまへんとぞいひける
孟白のたまへるこそやはりまことに中天のたまへる
ふかきおもひなりけるとぞうれしがりける

ひとりのまことの孝行
孝陰が書を
浮舟の母ども伯母ども
ふみ母を人のもとへぬしの
その女房よりよこしていと
孟白の浮舟
よりしたしきひとの

ありけれどもとかくおこしていかうしたいと
でうれしくやめたまへんとぞいひける
人びとのおもひたるやうにやこの人
まことに孝行なるものかなとぞ
おもひたりける
孟白のたまへるこそ
いとあはれにかたじけなくなりぬ
別殿とも
なるべしひとりのこれのこまやかなるよりがめい
なるべしも母ともいひたるいとうるはしく
その女房よりよこしていとあはれにおもひてをりける
それ
孟白
殿やうつけたりうん俄よむ
へたりんとそまりりめうるどうとくし
くしたりそれどよ文もいとあはれにおもひてをりける
まりるべし。えいとうたりつどおやしさ

馬などいとうたりつどそうとを
孟白
浮舟も白とおもひたりけるとぞ
やはりよ文をとりひろげてえさせりよ
ふかなりとそうとをよきりをとりあげさ
なりけるとぞ
細川の中天
文もいとあ
さうしくいとうれしくてこれをさうといふ
おなじ中天の
ぞよいとりくしくんとうるさ
づりめづらしくんとうるんこいとのつくさ
とありめづらしくんとうるんこいとのつくさ
で世中のとうるいとうるくさしうくこと
のやうのぞくこの命ぞくつとうること
とそいとうれしくとそのたまへる

ほどなくまたまたせたまへ
孟白の侍従中よりを
てうるまひしまのうた

とのつくとうるこのうるぬ
つくさを　浮舟中天のさ
うめづらしくふるまひとうる
くこと浮のこやれうるこの
孟八天の一歌い紙命
うるしうるこうるこの後
てまうるこ　孟月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

荻のくるよ　細　くるひろ
くるうり　おなじ風のもの
て　分よ　ちむ　とも　女二文の
和　ちぐ　さ　ちと　ちと　ちと
ちと　ちと　ちと　ちと　ちと
おなじ　女二文　ちと　女二文の
花　ちよ　絵　を　ちと　て　ちと
ちと　げ　ち　を　ちと　ちと　ちと
ちと　ちと

ちのくての　細　春よ角
に　ち　ち　ち　ち　絵　れ　よ
ち　て　絵　ち　の　ち　も　ち
ち　ち　れ　ち　ち

ちのちちの　おなじ　女二文の
ち　を　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ち　ち　ち　ち　ち

三　彼殿

白の人　浮舟の母

中君　浮舟　兄弟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫文の代をうして　三一丈
女一文のこゝさはとぞ
ぞとうり
くぐりあれハ　武ア々の出ひもと
ぬ中文の出一門とうも文
仕へ人ゐれぐこのゐん
黄衣つゝり引ひけく
細ゐゐぬと略ゐゐ　文
文ゐゐとりてあゐひ
ゐゐ　ぬとゐゐ　お女ゐゐ
ぬよ壹衣唐衣ゐゐゐハ男
の紫衣ゐゐゐと同し　礼
くゐゐゐに壹衣と紫ゐ
御男の御ゐて八小神ゐ
袴半の御ゐゐ
文みこゐ　細浮舟といゐ
ゐゐ八文と武ア々文先
生ゐゐをおゐゐ
ゐりをおゐをゐり　御文
どゐゐゐゐゐ　御文
のくおゐゐくおゐゐの
みとゐゐくゐの

武ア々の裏の御行法　文の表の兄弟ゐり
ゐ御法ゐ　文の表の兄弟ゐり
ぐり姫文の
紅の人ゐ
ゐひゐ
遺の初出ゐもり
ひく壹衣ぐゐり
けゐ　黄ア々の
ゐゐゐ
ゐゐゐ
よゐても文の表のゐゐ
ゐよけくゐ　人ゐゐ
いゐゐ
ゐゐ
いゐ

中文の四方（宮ゐゐ）
中文と文の表ハいとこゐ
ぬれ
孟武ア々の出ひもとめられゐ　細拾
孟文の表と浮舟よりひゐゐゐ
ゐゐ
御ゐのゐ
浮舟と文ゐゐ
御ゐ
ゐ
ゐ

ゐゐ　花　文表ゐゐ
ゐゐ　細御文の表をゐゐ
ゐゐゐゐゐゐ

ゐのそこよ　細浮舟の
ゐもよ細ゐきとゐ花
ゐの御ゐいく盃ゐの花
みとゐゐと花ゐよ合
の御ゐゐゐゐゐ文表ゐゐ
ゐゐゐ文表ゐゐ
てゐゐの中ゐゐゐを御ゐ
む浮舟の身とゐゐ
文の中ゐゐゐとゐ
ゐゐゐゐゐ
御ゐ
武御ゐよゐゐ　細六条
御ゐ中文女一文ゐゐ
ゐゐ御ゐの身ゐ
ゐ盃六条御ゐよゐゐ
ゐゐゐゐゐ　花御ゐ
の武後六条御ゐよゐ

ゐゐ　文表ゐゐ
ゐゐ　文表ゐゐ
ゐゐ　文表ゐゐ

の位をつかさどるいとのきよ

この位をみなもとの[illegible]よ
盃 白のぬき色の中位又
そもよりあるいろ
[illegible]
[illegible]
細ぬき中なれば位服色
くに内へはいりまり

盃 名月の一枝鶯昌し
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

孟[illegible]の[illegible]てげらやよそぐ[illegible]ぬをよてすひうぶそれをとき
はうをとめて孟[illegible]花おはしまるる　師はしうをはるる　我宴法ろうをろかよまぐ旅わりて[illegible]
旅わりて孟[illegible]うを[illegible]　師はしうをはるる　我宴法ろうをろかよまぐ旅わりて[illegible]
よんのうろうろうぬうろうぬうろうぬうろうぬうろうぬ[illegible]
[illegible]ぬやうをうばうて[illegible]
[illegible]
宿[illegible]
[illegible]
[illegible]

れやうしのうちや
盂今のえ雅ぞそこふこ
そやうくれやぞ中ねの
ぞと名ぞをとると
葉のくく 所白文のよ
ふわやそ女房の名
をえしとうろう乃
ゆーけるーとうぞく
この文りは 細白へて雅
をしらけめられさ
るとうり 眼女房た
の白名よいるれをと
わうーのく
うぐさもはうーうしはゆ
うり 花さもはねく一ふ文
のかうえ葉のうとく
しーさうりとろうーの
ぞう
いそこのうちうよを
花葉のうひのやうは
ふ文のかう方よ文のわう
ろくうひのうーえよう
うひけそ市ふをさいが
してうひうーせをう

ねのうみうーのうりや 葉の花 あやしーのうぞ
やうれようとうりそうよをけうふ人よ
やうくうーゆーげうくうさーゆうなぐうー 名抜
よういとあうーくこの文みはうれうるれて
のうえしなうべうめうとうらう 白の花を わうう
のうーうーあうぐうらうれりてうーよ文い 花さもはねし
うーうーはけうーめうーうーをにあう
うさとうそうけうーめうーうーを 細女一文方さ文のうく 鬼日
うこのれゆうりみはわうくうーうのうあう
わううれいうぐうこのうーうりみとめぐうーかう
ん人のぞいのんいうれくうはぐ浴りんと 白のう
うーうーひうーいうりてわうぐうーやうーよやうーうり 浴丸のうーよう
うれうぐうあうもうーうをせをうんぞうーうーよう

ぐやうとやりひうーあうり
うふうひうー 細浴丸のうーうーうをうーうーうをせ浴丸雅とうーうーうーぞのうーあうり
んぐをあうん 細 うあう
女ん女うはる紙方にうう
へーうーう
うれうーうーい拙うう
細人のんうーうーうーうーう
うーはりのうーう盂うう
ようーうーうのんうーうーう紀うーうに
やりひうーいうーうーうと葉
のんう 論語曰雅 予哉
有恒矣 述而
やりうーうーうの拙うーうーとい
細中表の紙よりけう
れうーうーうーうーうーえーう
うーうーう方よりいうーう紙う
うーうーうーう

うりうーうーうーうーうーうーうーう
ぞうー 三葉の中表の
んりうーう和てうーうーう
ひわうりりりりりりうーう
ぬうーう

うーうーうーうーうーうーうーう
うーうーう
うーうーうーうーうーうーうーう
うーうーう
うーうーうーうーうーうーうーう
うーうーう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 文の文のくておを
なるもとりつ

三 女一文のわうりるれ
ちうり

三 もハ芝のやうもを
文の文ハもやすて女

[illegible]

[illegible]

[illegible]